

はやしした えいじ  
林下 英二さん

「デジタル化で地方の出版社が埋没したら、業界の中央一極集中を加速させる。その前にこちらから流れを起こそう」。札幌市東区の「中西出版」社長。6月に道内の中小11社が立ち上げた一般社団法人「北海道デジタル出版推進協会」の代表理事に就任した。

スマートフォンやタブレット端末向けの電子書籍の販売は、技術面や取次サービス業者との交渉など中小単独ではハードルが高い。協会は、そうした業務を一括支援する窓口を目指す。

同様の組織には、講談社や新潮社など大手が出資した出版デジタル機構（東京）があるが、地方では珍しい。きっかけは2011年度に札幌市中央図書館が行った電子図書館実証実験。「図書館へのノウハウ提供で終わらずビジネス化できないか」と参加企業が手弁当で検討を進めてきた。

札幌出身の63歳。慶大法学部卒業後、東京でマーシヤン関連のフリーライターとして数年間活躍した異色の経営者だ。10年に自社単独で電子絵本「おぼけのマー」とまるやまどうぶつえんを配信後、電子書籍専門店を開設するなどデジタル化の足固めを図ってきた。

「実はどの出版社も電子書籍は予想より、もうかっていない」。そんな中、狙いは活字媒体との相乗効果。絶版になった良書のデジタル復刻も協会の目標だ。「ここ2、3年が勝負。うまく軌道に乗せて若い世代に引き継ぎたい」

(磯田佳孝)



2013年7月24日(水)  
北海道新聞 朝刊